

# わさびと唐辛子

## －2年次校外学習 完結編－

3年次 小林美智子・阪本康之・深澤孝之  
岡 聖美

昨年は事前指導の報告及び実施予定計画のまとめを報告した。今回は、その後の実施報告と比較文化論集の編集の実施と意義。特に、交流会での実施報告とその効果の詳細な報告である。校外学習実施による生徒自身への成果や総合的学習の時間に置き換えた場合の課題等も考察した。また3年次科目「課題研究」への発展的効果につて、考えつくままに記した。雑駁な内容であるがH14年度校外学習の完結編とする。

キーワード：〔校外学習〕〔総合的学習の時間〕〔課題研究〕〔交流会〕〔比較文化論〕

### I. はじめに

昨年の研究紀要では、韓国出発前、交流会準備までの中間報告であった。

今回は、韓国現地へ出発し、歴史・文化に触れ、また今回の一番の目的である交流会において、どのような成果と生徒自身への効果が得られたかをまとめた。さらに比較文化の総まとめとして、比較文化論を編集したのでここに報告する。

### II. 交流会

これまでの校外学習における交流会は相手校を訪問する、いわばゲストとしての立場だけで行って来た。しかし今回はそれに加えて、相手校の生徒を自分たちのところに招待してホストをつとめるという形の交流会も企画した。この相手校を招待しての交流会は、生徒同士また学校同士の親睦がより深まるであろうことが期待される上に、生徒自身がホスト役を引き受けることによってどうすればゲストに喜んでもらえるのか考え、その結果「交流するとはどういうことなのか」、「相互理解のためにはどうしたらよいか」を体得することができ、企画力が育成されるという点において、その意義は大きい。

企画立案から練習進行まで、そのほとんどを中心になって行ったのが、校外学習委員から選出された交流会係の生徒たちである。交流会での出し物、プレゼントについても彼らが皆の意見を集約して次のように決定した。

#### ○訪問交流会

- ・生徒会長による韓国語でのあいさつ
- ・だるまのプレゼント  
交流会係代表が韓国語で説明
- ・全員合唱Part I 「大地讃頌」

- ・ソーラン節
- ・全員合唱Part 2 「明日があるさ」

#### ○招待交流会

- ・校外学習委員長による韓国語でのあいさつ
- ・押し花をあしらった卵アートプレゼント
- ・日本舞踊
- ・日本の歌メドレー
- ・本校紹介ビデオ
- ・ブースでのグループ発表「日韓文化比較」  
パンフレット作成（韓国語）  
発表ツールの模造紙作成（韓国語）  
その他、展示物の用意

#### 1. 事前練習

年が明けて『わさびと唐辛子』の本編が近づくにつれ、それぞれの出し物の練習や準備時間が増えていった。2月初めの保護者会の日、リハーサルをかねて全員合唱、ソーラン節、日本舞踊といった出し物を披露した。練習不足の感は否めなかったが、保護者からの温かい拍手と言葉が何よりの励ましとなった。

学年末考査が終わってからは次の日程で準備・練習を進めた。

学年末考査後は毎日1時間ほどの合唱の練習を行ったが、160人もいるにも関わらず、皆感心するほど熱心に練習を重ねた。

これと平行してブース発表の準備も進められていた。出発直前には体育館を利用して、交流会の時に行うのと同じようなブースを仮設し、教官が相手校生徒役としてブースを訪れ説明を受けるといふ予行演習も行った。日本の昔話しを人形劇にして発表するという方法をとった

グループのように、非常にわかりやすいところもあれば、歴史を研究したグループのように伝達の方法に四苦八苦するところもあった。

## 2年次 登校予定

日	曜日	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目
2月25日	月曜日	バス等準備、ホテル試験料以	市内観光 コース決め	合唱練習			
2月26日	火曜日	合唱練習	課題研究相談会				
2月27日	水曜日	バス準備(練習用)を準備	ブース準備、パンフレット作成				
2月28日	木曜日	予練会					
3月1日	金曜日	合唱練習	ブースセッティング(体育館)				
3月2日	土曜日	合唱練習	ブース改修作業 質問(放送大学留学生来校)			***	**
3月3日	日曜日	***	***	***	***	***	**
3月4日	月曜日	合唱練習	校長講話	パンフレット、掲示物完成 しおり配布、説明など入国カード記入			
3月5日	火曜日	合唱練習					
3月6日	水曜日	合唱練習	ブースセッティング(体育館) リハーサル				
3月7日	木曜日	卒業式準備			進行		
3月8日	金曜日	卒業式					
3月9日	土曜日	***	***	***	***	***	**
3月10日	日曜日	***	***	***	***	***	**
3月11日	月曜日	基礎学力検定試験					
3月12日	火曜日	合唱練習	交流会リハーサル				
3月13日	水曜日	事前指導					
3月14日	木曜日	韓国校外学習「わさびと唐辛子」本編					
3月15日	金曜日	韓国校外学習「わさびと唐辛子」本編					
3月16日	土曜日	韓国校外学習「わさびと唐辛子」本編					
3月17日	日曜日	韓国校外学習「わさびと唐辛子」本編					
3月18日	月曜日	韓国校外学習「わさびと唐辛子」本編					
3月19日	火曜日	***	***	代休	***	***	**
3月20日	水曜日	事後指導					

交流会係は個々の練習、準備の合間をぬって司会の原稿を考え、留学経験のある生徒に英訳してもらった。また、あいさつをする生徒は原稿を考えた。東京国際大の韓国人留学生に依頼してこれらのドラフト原稿の韓国語翻訳や、模範的な発音、読み方等の録音をしてもらい、指導を受けながらあいさつの練習も行っていた。

### 2. 交流会本番

交流会は校外学習3日目(午前2.5時間)・4日目(午後2時間)の計約4時間半という限られた時間の中で行われた。

#### (1) 訪問交流会

徳園芸術高校を訪れ、たくさんの拍手のもとに交流会が始まった。当日のプログラムは次の通りである。

＜プログラム＞

司会 訪問相手校教員  
※相互通訳あり  
場所 徳園芸術高校講堂

入場

- 開会のあいさつ
- 相手校校長の言葉
- 本校副校長の言葉
- 相手校生徒代表の言葉
- 本校生徒代表の言葉：生徒会長(韓国語)
- プレゼント交換  
    プレゼントの説明(韓国語)
- 相手校の出し物
  - ・楽器演奏
  - ・伝統舞踊
- 本校の出し物 進行：本校生徒(英語)
  - ・合唱「大地讃頌」
  - ・ソーラン節(有志)
  - ・合唱「明日があるさ」

退場

- 各自別交流
- 招待交流会の連絡

本校生徒会長の韓国語によるあいさつは実に堂々とした発表だった。相手校の生徒たちは感動したようで、場が大いに盛り上がった。本校からのプレゼントは日本の代表的な文化を象徴する「だるま」だった。プレゼンターが韓国語でだるまの由来について説明し、お互いの代表がだるまに目を入れ合った。日本の文化の一つの紹介、交流会への導入として効果的な企画であった。



本校の最初の出し物である全員合唱Part I「大地讃頌」では、入場時から相手校と本校生徒が1列ずつ交互に並ぶようになっていたため、練習の時のようにパート別に並び直す時間がなかった。しかし、熱心な練習の成果が実り、とても素晴らしい混声四部合唱であった。



次に披露された有志20名によるソーラン節は、気合いが入って元気な発表だった。相手校校長も非常に興味を持ったと見え、発表後生徒に踊り（「漁」の踊りであることを説明していた。全員合唱PartⅡの「明日があるさ」では相手校生徒から手拍子をもらい、楽しく歌うことができた。



この交流会では、各自が訪問校の生徒たちと直接話をする時間はほとんどなかったが、それでも充実した時間を過ごすことができたようである。全員が校庭に出て、輪になっておしゃべりをするもの、混合チームでバスケットやサッカーなどの始めたもの、時間になっても別れを惜しむ生徒でいっぱいだった。

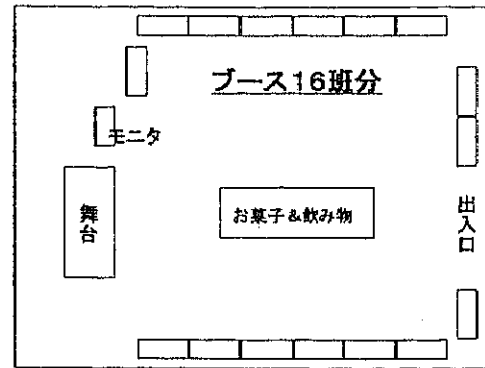
こうして訪問交流会は終了。この名残り惜しさが次の日の招待交流会の活力となったようだ。

## (2) 招待交流会

ブース発表用の資料の搬入、簡単なリハーサルは前夜のうちに終わった。交流会2日目は、宿泊先のホテルから歩いて3分ほどのホールで開催され、この日のゲストは相手校の生徒約40名に、校長、今回の校外学習の班行動の際に案内を依頼した地元の大学生16名であった。

当日は班行動で市内観光をした後だったため、戻ってくる時間がまちまちで、始まるまでかなり混乱した。ホテルスタッフによって16ブース分の机が持ち込まれ、

班行動から帰ってきた生徒たちはパンフレットや実物、ポスターなどを展示した。会場中央には日本から持ち寄ったお菓子と飲み物がセッティングされた。



会場模式図

## <プログラム>

司会：本校生徒（英語）

場所：ホテルホール

### お迎え

- 開会のあいさつ
- 本校校長の言葉
- 相手校校長の言葉
- 本校生徒代表の言葉：
  - 校外学習委員長（韓国語）

- 本校の出し物Ⅰ
  - ・日本舞踊「さくらさくら」、「十日町小唄」（有志）
  - ・日本の歌メドレー（有志）
    - 赤とんぼ、ふるさと、通りゃんせ、もみじ、島唄

- ブース発表 PartⅠ
  - 班ごとに事前学習で研究した内容「日韓の文化比較」
- 本校紹介（作製：校外学習委員）
- たまごアートプレゼント
  - （作製：校外学習委員）

- ブース発表 PartⅡ
  - 相手校生徒代表お礼の言葉
  - 閉会のあいさつ

### お見送り

どのように始めるかの確認が双方不十分であったため、開始時に多少ざわついたがその後は滞りなく進行した。

前日と同様、本校代表生徒の韓国語によるあいさつは立派であった。招待交流会最初の出し物の「日本舞踊」は先生の熱心な指導と生徒の練習のたまものと言えよう。最初はゆかたを着るのもままならなかった生徒の大きな進歩であり、成果であった。「日本の唄メドレー」は受け継がれてきた日本の美しい歌を披露することができた。

「日本の唄メドレー」写真



「ブース発表」では積極的に招待者に話しかけ、自分たちの研究を伝えようと努力していたようである。



途中でブース発表を一時中断し、本校紹介のVTRを流し始めた。ビデオには生徒全員と引率教官全員が何らかの形で登場しており、テンポが良く、本校の様子がコンパクトにまとまった素晴らしいものに仕上がっていた。招待者よりも本校の生徒たちの方が盛り上がりってしまったのはしかたのないところか。たまごアートは本校で飼育している鶏の卵殻を着色し貼り絵にして、本校に生育している植物を押し花にしてあしらったものであり、まさにオリジナルのプレゼントであっただろう。生徒たちのアイデアには感心する。



再びブース発表を開始、初めよりはかなり慣れた様子で進んだ。閉会のあいさつ後には、各所で写真撮影会と

なった。住所やメールアドレスを交換するもの、抱き合っ泣き出すものもいるなどかなり名残惜しかったと見え、片づけ始めるのがかなり遅れた。

この校外学習出発前に「招かれたら招き返す、自分たちがもてなすんだという気持ちを常に忘れないこと」という教官からの指導があったが、多くの生徒が懸命にホスト役をこなした結果が、招待交流会の成功を導いたと言えるだろう。

### 3. 課題

帰国後、事後学習の一つとしてアンケートを行った。内容と結果は資料の通りである。

アンケートの回答からも、交流会を行ったことは意義があることだったということがわかる。現地高校生と交流を図ることや、また招待することによる企画力の向上という点に関して、目標は十分に達成されたと思われる。こうした経験は将来、グローバルな視点で物事を考え、より広い視野と国際性を身につけるべく努力しようとするきっかけとなるに違いない。まずは大成功というべきであろう。

一方でいくつか気になる点もあった。生徒の回答に「時間が足りなかった」というものが多かったように、日程は確かにタイトであった。今回は招待交流会がメインであり、準備に多くの時間を費やしたが、設定された本番の時間は満足できるものではなかったようだ。だが2つある交流会に十分な時間をかけるためには見学場所や移動時間を減らさなければならない。時間的な問題をどうクリアするか、どこに重点をおくかよく考えて企画を練ることの重要性を感じた。

また、『お菓子食べ会』や『写真撮影会』になっていた」という意見も多かったことから、ブース発表である「日韓比較」のプレゼンテーションが十分にできなかったのではないと思われる。生徒は留学生のアドバイスを受けながら一生懸命に韓国語でパンフレットをつくり、模造紙に要点をまとめ、相手校生徒を出迎えた。しかし、それを交流相手にどのように伝えるかは難しかったようだ。そのため、お菓子を食ったり、写真を一緒に撮影したりなど、コミュニケーションをより簡単にとれる方向に流れていった。このこと自体は充分意義があることであるが、授業の一環、校外学習として訪れていることを考えると、苦勞して準備した「日韓比較」のプレゼンテーションを相手校生徒がどのように見たのか、その感想が気になるとともに今後ブース発表をどう充実させるかが課題の一つとなった。

2つの交流会を行ったことに関して、生徒はその趣旨をどれくらい理解していただろうか。2つの交流会を行ったことについて、否定的な感想があったのも事実である。今後の意識の高まりに期待したい。

### Ⅲ. 比較文化論

校外学習のテーマ「わさびと唐辛子」は呉善花著「ワサビの日本人唐辛子の韓国人」からヒントを得てつけたものである。この本では日本と韓国の文化や生活などその違いがわかりやすく紹介されている。わさびの辛さと唐辛子の辛さの違いが、日本人、韓国人の性格の違いを象徴的に表すものだというので、本の表題とになっている。校外学習全体のテーマを「わさびと唐辛子」にしたのは単に事前学習の中だけでなく、係の活動、交流会の準備、現地での見学や高校生との交流などあらゆる場面で日本と韓国を比較しながら両国の関係を考えさせる目的があったからである。

1年間の事前学習、および4泊5日の現地滞在が終わった後、校外学習のまとめとして生徒に対して「比較文化論」の作成を課した。「比較文化論」というとかなり高度な内容を要求しているように思われてしまうが、校外学習を通して日本と韓国との関係について自分が感じたこと、考察したことを高校生の言葉として率直に述べたものであればよいこととした。ただし、単なる感想文にならないよう次のような点を強調した。

- ①思ったこと、感じたことについてはなぜそのように思ったのか、他の人が納得できるように説明すること。
- ②生活、文化の違いを説明する場合は客観的な資料を提示しながら説明すること
- ③時間の進行に沿ってあったことを書いていく旅行の記録ではないので、ポイントをいくつか挙げそれについて論じること。

また、比較文化論の制作に際しては

A4のワープロ打ち(40字×30行)で2枚以上  
という条件も付け、春休みの課題とした。

4月に提出された論文は予想されてはいたが、多くは旅行の感想文というものであった。ただ、旅行記のような時間を追いながら、出来事を説明していくというものは少なく、いくつかのポイントについて焦点を絞って、自分の考えが述べられていた。

この論文は生徒自身が1年間を振り返って自分たちの活動を評価するものになると同時に、私たち教職員が1

年間の活動、校外学習のプログラムを評価する大変有効な資料となる。この校外学習が生徒に対してどのような影響を与えたのか、そして生徒達がどのように変化したのかじっくりと検証していく必要がある。

また、論文はクラスごとに文集としてまとめることになった。提出期限を守らない生徒がおり、編集の時期が予定よりも大幅に遅れてしまう結果となったが、完成させることができた。文集はハンゲル講座やグループ研究発表を手伝ってくださった、筑波大学、東京国際大学の韓国留学生の方々にもお礼の気持ちを込めて渡す予定である。

### Ⅳ. 事後アンケート

帰国後、「わさびと唐辛子」の一環としてアンケートを行った。内容は校外学習全般に渡るもの、「ブース発表」、「交流会」(前出)についてである。アンケートは全般に渡るもの、「交流会」に関しては全員にとったが、「ブース発表」については16のグループごとに話し合わせ、振り返らせた。結果を資料4・5に記す。

### Ⅴ. 韓国校外学習によるその後の効果

1つ1つの課題に対しての結果を評価するならば、その状況やアンケート調査等で成果を判断することはできる。しかし「資金調達」や「交流会」、「組織的な活動」等の活動による効果について考えると、この学習活動は各教科・科目等で習得した学習活動の成果を駆使することにより成り立つものである。それぞれの課題に対し、多角的に追究しながら、その過程や結果を通して「知の総合化」を図る学習活動であった。この学習体験を通して、身につけた学習知識や学習方法は、各教科・科目の場に戻り、更に生かされなければならないと考える。

生徒達が3年次になり、どのような成果となって表れているかは、数値的に示すことが困難であるし、校外学習だけでなく、その他のいろんな要素が絡み合っているため、主観的な感想としていくつか挙げさせて頂く。

①交流会で披露した「ソーラン節」はソーラダンス同好会として残り、地元の祭り「坂戸よさこい祭り」に参加し、地域の活動への協力を果たした。

②社会福祉作業所などへの協力等、積極的にボランティア活動へ参加していた。

③体育祭での活躍、黎明祭実行委員会での取り組み、黎明祭企画、「ファッションショー」発表では、すばらし

い企画力と協力体制が整い、大成功をおさめた。

## VI. 総合的な学習の時間に置き換えた場合の課題

### ○テーマは「異文化理解」

校外学習「事前学習」という切り口での実施であったが、総合的な学習の時間とするならば、あくまでも「異文化理解」がテーマであり、韓国へ行くことは、その目的を達成するための1つの手段である。

当然、内容も従来とは異なってくるはずである。そのためには、事前学習の目的や要求度、交流会の重要度と内容、出発時期や場所などかなりの面で新たな発想で実施することが必要であろう。

### ○時間数確保の問題

H13年度は、隔週土曜日の学校裁量時間とLHRを活用しての計画であった。しかし、時間割に組み込まれるようになると、フレキシブルな活動がしにくい。特に外部から講師を派遣してもらう場合は特別な時間を設定するなど、かなりの制約の中で行うことが予想される。内容をかなり精選する必要がある。

### ○評価のあり方

本来、評価とは目標やねらいに対し、どの程度達成できたかということになるが、この場合の目的は短時間では急に身に付くものではなく、長い時間かかって徐々に伸びていくものである。そのためにも「どの段階で、どのような力を育てるか」を明確にし、年間指導計画の段階から「どの場面でどのような力をどんな方法で評価するか」を計画しておくことが必要となる。

学習課程での報告書や作品、討論会等での意欲・態度、進行状況など総合的に評価できる方法の研究が必要となる。

### ○生徒の研究活動に対する校内支援体制の確立

今までは、年次担当者のみで対応していたが、多様な研究内容に対応させるためにも、幅広いメンバーでの支援体制が必要となる。

そのためには、意義やねらい、指導方法などの校内での全教員の共通理解が必要である。検討委員会や校内研修の設置も考えられる。

### ○3年次科目「課題研究」へと発展させる

早めの取り組みを考え、事前研究（グループ研究）を行っている時点より来年度の「課題研究」見据えた指導

を行ってきた。

・テーマ決めの考え方 ・研究の進め方 等である。

従って、意識付けとしては早い段階から行き、課題研究に取り組む自分をイメージさせながらの2年次研究活動であった。

具体的なスタートとしては、12月頃より課題を与え、冬休みを有効に活用できる体制を整えた。韓国出発に向けての準備と併せて、順調に進み、一回目の研究発表も行った。しかし韓国での強い刺激を受けると同時に課題研究への意識が薄れ、4月スタートの段階で少し停滞をした。

これを考えると、韓国校外学習の時期をもう少し早めに行うと、次年度への流れが自然にできるのではないかと考えられる。

## VII. まとめ

今回の校外学習は、例年に比較し、高度な課題を多く生徒に投げつけてみた。

これは、本校、韓国校外学習5回目であり、先輩たちの様子を見ていることや、1年次よりコミュニケーションキャンプや意見発表会等での自主的活動や企画力、生徒間での協力体制などの様子から、「この学年ならできる」と確信したからである。

主に次のような課題を与えた。

- ①大テーマを「比較文化論」とした
  - ②「資金調達」の企画・実行・利益を実行
  - ③従来の交流会に加え「招待交流会」を企画・実行
  - ④現地にて「研究発表」を行う
  - ⑤交流会での内容は「本校ならでは」のものとし、相手校芸術高校に引けを取らないものとする
- その他数え上げたら、細かいことが沢山揚げられるが、上記の5項目においては、その主旨を理解し、ユニークで本校生ならではの発想と実行力でその目的を充分に果たした。

その裏では、教員たちからのアドバイスや活動しやすい環境のセッティングなど、多くの援助が必要であるが、そういう環境を整えさえすれば、本校生徒たちは、期待以上のものを作り上げる能力がある。ということである。

ブース(グループ研究)に関する反省

1. 4月にたてた準備の計画に対して進捗状況はどうだったですか。

- ・思った以上に話し合いが少なく、大丈夫かと心配したけれど、最後の方はみんなで団結して出来たので、韓国までには間に合わせることが出来た。普段だったら、絶対に放課後に残らないメンバーだったけどみんな残って頑張った。
- ・夏休みが入ってからは進むスピードが予定していたよりも遅く、なかなか進めていくことが出来なかった。
- ・資料集めは後半に回されて、あせってやることになったが、みんなが1つとなって出来た。
- ・はじめからしっかりとした計画をたて、その通りに動けばうまく出来たはずである。
- ・夏休みに詳しく調べることや何をいつまでに終わらせるといった期限は守れたと思った。
- ・パンフレット作成に時間がかかってしまった。
- ・アイデアがなかなか浮かばなく、それをまとめるのに時間がかかった。



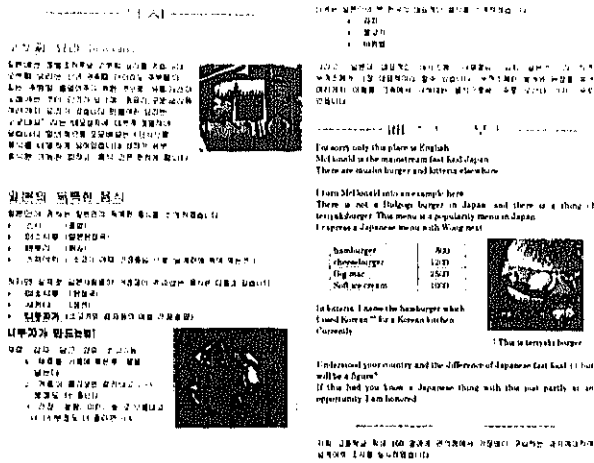
2. グループ研究での取り組みはどうでしたか。

- ・最後の発表までたどりつけたのは、班員1人1人の力のおかげであり、1つのものを作り上げることが出来、すごく嬉しかった。
- ・初めは積極的にみんなが出来ず、先生から提出をせまられた時に、あせって何人かで提出物を作った。でも本番が近づくにつれて危機感が出てきたせい、1人1人の仕事が出てきて、だんだん取り組むようになってきた。最初から危機感が持てれば1年間1人1人がしっかり取り組めたと思う。
- ・けっこうだらだらしてしまっ、何を調べるかはっきりしないで、何となく時間が過ぎたときも何回か

あって、そこは反省したいと思いました。

- ・10人という人数の多さが大変だった。
- ・班内で3つのテーマに分かれて調べたので、手が余っている人がいなくて上手に仕事に分けられたと思う。
- ・3つのグループに分かれ、少しやりやすくなったとはいえ、大勢で1から研究していくことは難しいと思った。
- ・グループ全体として、まとまって研究ということが、なかなかうまくいかなかった。
- ・やっている人とやらない人の差が激しかった。
- ・歴史の内容だったから、どの程度書けばいいのかわからなかったが、アンケートを作ったり、韓国の人に話を聞いたり、それなりに頑張った。
- ・ほかのグループが調べている内容を確認しあえたらもっと良かった。が、それぞれ自分の調べたいことを出来て良かった。
- ・パンフレットや模造紙をいいものに完成させられた。
- ・みんなの意見を取り入れて、積極的に作業が出来て良かった。
- ・最初はあまり仲良くなかったけど、最後は仲良くなれた。積極性もついた。
- ・1人で研究していくより寂しくなくて良かった。
- ・思っていたよりも資料が集まらなくて大変でした。韓国の人達はどれくらい日本のことを知っているかもわからなかった。それによって説明の仕方とも変わってくるので、難しかったです。説明の仕方ただの日本の自慢にならないかどうかと考えることは本当にたくさんありました。比較することの難しさを感じました。

資料「パンフレット」

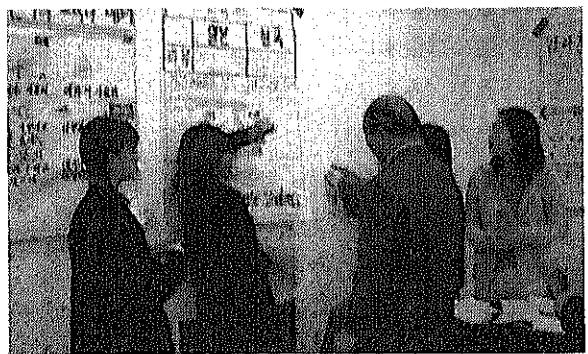


### 3. ブース発表はどうでしたか。

- 予想以上に良く出来たと思いました。ゆかたの着付けは、向こうの学校の生徒にすばらしく人気があって、交流会をやっている間中、ひっきりなしに着付けをやり続けました。着付けをやる方はすごく大変だったけれど、すごく喜んでくれたので嬉しかったです。あと、着付けの実演は韓国の人にもわかりやすく良かったと思う。少しは日本の文化について（着物について）わかってくれたかなあと思います。
- 言葉が通じないながらも、有名な選手などの名前を言って、コミュニケーションをとっていた。ブースの内容を発表するよりも向こうの学生と友達のように話していた。
- 成功したという意見と写真撮影会みたいだったという意見に分かれた。本当にブース発表に興味を持ってきた人も数多くいたし、写真だけ目当てにすぐに帰ってしまう人もいた。興味を持ってくれた人は、掲示してあった日本歌を歌ってくれとも言われた。韓国の校長先生にもほめられた。
- ライブビデオを上演したり、視聴できるスペースを作った。德國の生徒達も立ち寄ってくれて良かったけれど、もう少し相手が何を聞いてくるかなど予想をしておけばよかったと思う。バンド演奏をして、もっと韓国の人に、私たちの音楽観を理解してもらいたかった。
- 模造紙は見えてくれなかったけど、展示品を見てくれた。説明もそこそこできたと思う。
- 韓国の大学生に頼りっぱなしで、情けないと感じた。
- グループ内でいろいろと努力したけれど、テーマにあまり興味がなかったらしく、あまり人がよってく

れなかったのが残念だった。

- 事前に役割を分担し、順番にそれを変えていくことになったが、その通りにはいかずブースは男子のたまり場になっていた。
- 歴史は内容が重くて、学生の人達は誰も立ち止まって見てくれなかった。
- 相手にあまり内容を理解してもらえなかったところもあり、よく出来たとは言いがたいが、向こうの方々との会話で、多少相手の考え方がわかるようなことがあった。
- 1年もかけて調べたのに、伝わっていない気がした。言葉の壁が厚かった。



- 準備するものもいろいろあったけど、発表では漬物もたくさん食べてくれて良かったと思う。最初はコミュニケーションをとるのも難しかったけど、少しだけ覚えていたハングル語が大活躍した。梅干しや日本のキムチにも興味を持ってくれたのが嬉しかった。試食をしてもらうのに人がたくさん集まって交流会で知り合った友達と話をしたり、お菓子を食べたり楽しかった。
- 大学生の人とかに聞いていた以上に、韓国の学生はディズニーランドのことや日本のことについて知っていて、私たちはとても驚きました。会話も少しの英単語とジェスチャーでなんとか乗り越えました。だけど意外と通じて仲良くなれました。発表はとても楽しいものになったと思います。

### 4. グループ研究を1年間やってきての感想

- “あっ”という間に終わってしまった交流会だったけど、みんなでパンフレットを作ったり、着付けをしたり、模造紙に絵を描いたりしてすごく楽しかった。だけど1年間もかけてやることだったかどうかと思う。
- 少し面倒だと思ったし、文化を比較することはすごく難しかった。また、研究することがすごく難しい



ことなんだということがわかった。それでも、本番は楽しく仲良く出来たし、一番理想的な形だったのではないかと思われる。

- ・最初のうちは、みんなやる気がなく、誰かがやってくれるという感じだったけど、それなりにみんな責任を持ち、自分の仕事をやってくれるようになってきた。パンフレットを作るときなど、韓国へ行く少し前まで、いろいろと話し合いながら、作るようになっていたが、ブースを作り、韓国の人がかくと、みんないやな顔をせずに頑張ってコミュニケーションをとっていた。
- ・1年間をムダにした気分だった。台本とかの読み合わせとかをもう少ししとけば良かった。
- ・1年間という時間が長かったという意見と、短かったという意見がそれぞれ出ました。それは、この1年間に自分がどのような姿勢で、取り組めたかの違いでもあると思います。だけど、最終的にグループで協力して、ブースで発表をしたことは、1人1人にとってとても意味深く、形では残らない何かを得られることが出来たと思います。この経験と反省を生かして、3年次の課題研究ではあきらめないで、自分の学んできたことの全てを出せればいいと思います。
- ・異なるテーマを持った人達が集まって、アバウトに「音楽」という班にまとめられたために、協調性はないし、行き当たりばったりなことも多かったけれど、最終的には同じブースの人とも話せるようになった。
- ・1つのことについて、1年間かけて調べるなんてことをしたことがなかったのでいい経験になった。
- ・最初に自分で調べたのと違ってかなりあせった。1年かけてやってきたのに、本番はうまくいかずただ悔しい。ハンゲル語を勉強してもっと韓国人に説明できればよかった。
- ・1年間頑張ってこれたのは班員みんなの協力のたまものではないでしょうか。頑張った研究が韓国の人に喜ばれて、努力が報われたような気がしました。一生懸命伝えようとした気持ちが、通じたときのうれしさが何よりの思い出です。
- ・勉強にはなったと思うが、校外学習での無駄な時間になったと思った。1年間もいらなくて、半年くらいならみんな集中して出来たのではないか。
- ・計画を立て行動していくことが、どんなに難しいか分かった。

- ・1年間はすごく長かった。何をしたらいいのか、どのようにまとめたらいいのか、わからず停滞したことも多かったけど、発表までとりつくつと、やはり達成感があって頑張ってた良かったと思う。これからこういう機会があったらもっとうまく、計画的に出来る気がする。

#### 資料5

### わさびと唐辛子 全般的な感想

#### 1. 目的地・・・韓国（海外）であることへの感想

- ・はじめは何でそんな日本と同じようなところへ行くのかと本当に嫌だったけど、文化の違いをありありと感じ、すばらしいと思った。
- ・海外もいろいろ初めてのことを学べるからいい。文化の違い、言葉の違いを知ることが出来た。
- ・一番近い国なので1度行ってもいい。
- ・初めての海外ですごくドキドキし、心配もあったけど、ほとんど団体行動だったし、顔も似ていたのでそんなに違和感を感じなかった
- ・海外へ行くのも、飛行機に乗るのも初めてだったので、とてもいい経験になった。出来れば、また韓国に行きたいと思う。
- ・行く前にいろいろ調べたり、新しいことを発見したり知ることが出来て良かった。
- ・日本と関わりの深い韓国へ行けたのも良かった。
- ・日本語のわかる人が多かった。
- ・近くて遠い国と言われている韓国は、日本ととても似ていると思っていたが実際は違っていた。
- ・学習目的なのでふつうの観光よりもいいと思う。
- ・外国を知ることによって日本を知ることが出来た。
- ・歴史的にも関わりが深く、地理的にもちょうど良くてすごく良い。高校生なら向き合うべきテーマも多くあったと思う。



- ・日本と何も変わらないで、ちょっとつまらなかった。

もっと今まで見たことのないものを見たかった。

## 2. 班別自由行動について

- ・現地大学生が電車を間違いたりするなど、迷って困ったようだ。
- ・時間に余裕がなかった。丸1日欲しかった。
- ・ホテルからソウルまで遠すぎたり、班員の数が多すぎて行きかかったところへ行けなかった。買い物と勉強の両立が出来なかった。ほとんど何も見れなかったし、大きく遅刻してしまってみんなに迷惑をかけた班もあった。
- ・いろいろな店を見れたり、楽しむことが出来た生徒もいた。

## 3. 次の各場所を見学し、何を感じ取りましたか？

### ○龍頭公園

- ・雨が降っていて、景色があんまりよくなく残念だった。
- ・韓国の街の様子を見た。



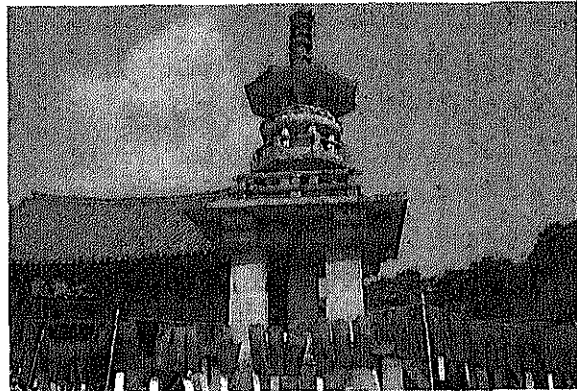
### ○石窟庵

- ・山の雰囲気からして日本と違っていた。
- ・見た目が少し日本のものと似ているなど、日本は本当に韓国から影響を受けているんだなと感じた。
- ・色はとてもカラフルだったが、色遣いがみんな同じだった。
- ・石の中にある大仏がすごくきれいだった。



### ○仏国寺

- ・日本のものとも違う感じで印象がすごく強かった。
- ・日本よりも色遣いがきれいだがとてもハデだった。
- ・建物の模様がきれいだった。
- ・日本と良く似ている建物だった。京都を思い出した。
- ・世界史で習ったので行けて良かった。
- ・自然が豊富でとても落ち着いていた。



### ○古墳公園

- ・王の墓ということだったが、日本のものと大きく違いあまり実感がわかなかった。
- ・日本とはだいぶ墓のことについて考えが違っていた。
- ・王族のアクセサリがきれいだった。きれいに残っていることにもすごいと思った。
- ・全部石で出来ていることにはかなりびっくりした。
- ・古墳の天井が高い。すごく好きな場所だった。



### ○韓国民族村

- ・韓国の昔の暮らしを少しでも知ることが出来た。
- ・わらぶき屋根など日本と似ているところがたくさんあって日本にいるみたいだった。
- ・昔の民族衣装が楽しくかわいかった。
- ・チマチョゴリを着た。いい記念だった。
- ・韓国の民族の様子を知ることが出来て良かったと思うけど、観光地すぎて嫌だった。



#### ○統一展望台

- ・改めて国が2つに割れているのだと思った。
- ・こんなに近い国どうしのもめごとになんだか人間情けなく思った。
- ・あまりにも北朝鮮が近くに見えて驚いた。こんなに近いんだから仲良くなって欲しい。
- ・1日も早く統一して欲しい。
- ・ビデオを見て離れ離れになった人達の気持ちがかわいそうだと思った。
- ・ビデオの北朝鮮の説明が批判的で、韓国人の北に対するイメージがわかった。
- ・ビデオで「日帝」と言っているのに驚いた。
- ・銃を持った兵士なども見られ、今まで感じなかった緊張感を実感できた。
- ・北と南の歴史に触れて、日本がやっぱり良いと感じた。
- ・すべての中でこの展望台が一番印象に残った。
- ・国境はもっと絶対的なものだと思っていたのに、一見普通に見えるこのことがかえって辛く感じた。



#### 4. ホテルへの感想 (要望も含む)

##### ○慶州コーロンホテル

- ・大浴場が最高でした。
- ・きれいでとても良かった。
- ・高級な感じがして外国でのマナーや態度に気をつけることをここで改めて感じた。

##### ○ソウルオリンピックパーク

- ・景色が良かった。
- ・公園の緑が良く見える部屋で良かった。周りの公園を散歩したかった。

#### 5. 食事に対する意見・感想

- ・すべてが辛かった。
- ・場所によってでキムチの味が違った。
- ・鉄のはしが良かった。



#### 6. セマウル号乗車の感想

- ・ホームが低かった。
- ・ロッセリアにびっくりした。
- ・椅子とかが広く座りやすくゆったり座れて快適だった。
- ・韓国の景色がずっと見られておもしろかった。
- ・乗っている時間が長かった。



#### 7. パスポート・貴重品・健康塔の「自己管理」に対する感想

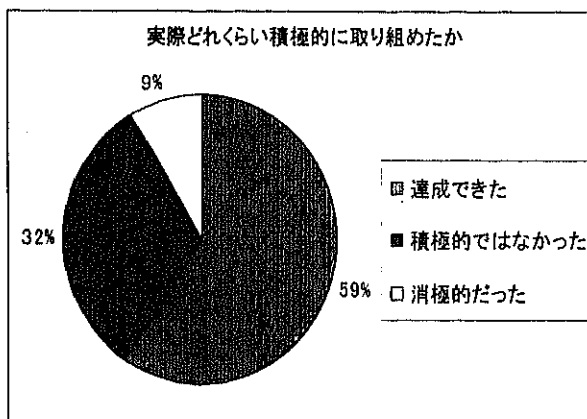
- ・日本にはない緊張が新鮮だった。
- ・自己管理の方が緊張感を持って行動できるので良いと思う。

8. 校外学習においてどんな目的を持って出発しましたか。実際どれくらい積極的に取り組みましたか？

○どのような目的を持っていましたか？

- ・交流会の成功。踊り、ソーラン、有志の発表をがんばり成功させること。
- ・交流会の時すんで現地の高校生と話そうと思った。
- ・韓国の人と仲良くなる。
- ・ハングル語を使う。
- ・韓国と日本の比較。町並みとか交通とか店とか日本とどう違うのかを比べようと思った。
- ・韓国を知る。好きになる

○目的に対して実際どうでしたか？



- ・交流会用に、名前と住所とか書いた名刺を作っておくと良いと思う。
- ・5日間はとても長いと思っていたけど、あっという間に過ぎた。
- ・海外旅行もいいものだった。
- ・忙しくて日本との相違点観察どころではなかった。
- ・韓国を好きになれた。
- ・日本とは何とは言えないが何か違っていた。スケールの違いをみせつけられた気がした。
- ・目的を持って行かないことにすごく後悔しました。
- ・見学したところがみんな同じような感じでつまらなかった。
- ・歴史に深く触れるわけでもなく、遊べるわけもなく、だからといって交流会が主体という2日間（数時間）しかないし、何が主体テーマなのか良くわかりませんでした。

9. 全体を通しての感想・反省・要望

- ・いろいろありすぎたけど楽しかった。
- ・楽しくもあったがスケジュールがとてもハードで疲れた。移動時間がかかりすぎて、見学時間が短い。
- ・自由行動を多くして欲しい。
- ・自由行動も楽しかったけれど、大学生とのコミュニケーションも難しかったし時間が短かった。
- ・もっと自分の足で歩いていろいろなものを見たかった。
- ・交流会を丸1日、自由行動を丸1日が良かった。
- ・交流会はとても楽しかった。友達も出来て、今はメールもしています。
- ・交流会は1回でいい。
- ・ブースの準備をしてきた時間がムダだった。
- ・交流会をして、もっと韓国語を学んでいたら、もっと英語を話せたらと思い、すごく残念だった。
- ・振り返って見ると交流会も成功したし、楽しい思い出になりました。